

科目名	知的障害者の心理			担当教員	野村 香代	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2SSR102
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	臨床心理士、公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	臨床心理士として、医療機関、教育現場で心理相談を行ってきた経験に基づき、知的障害児の困り感や支援のあり方について考える視点を提供する。					
到達目標及びテーマ	1.知的障害の定義、診断基準、および原因疾患に関する基礎知識を習得し、各ライフステージにおける発達の特徴を適切に説明できる。 2.知的障害児・者の心理的特性（認知、言語、対人関係等）を理解し、本人の強みを活かした学習支援やメンタルケアのあり方を具体的に検討できる。 3.就労・結婚・子育てを含む将来の自立に向けた課題を把握し、本人および家族のQOL（生活の質）を高めるための包括的な支援の視点を養う。					
授業の概要	本講義では、知的障害児・者の生涯にわたる心の発達と、それを取り巻く支援の実際について包括的に学ぶ。前半では、知的障害の医学的・心理学的基礎知識（診断基準、原因、認知特性など）を習得し、乳幼児期から学齢期における発達の課題を理解する。後半では、就園・就学から就労、さらには結婚や子育てといった成人期のライフイベントに焦点を当て、「本人が自身の障害をどう受容し、いかに主体的に生きていくか」という心理的側面に深く踏み込む。講義の終盤にはグループ発表の機会を設け、当事者が抱える現代的課題や具体的な支援方法について多角的に考察することで、将来の教育・福祉・心理の現場で求められる実践的な支援の視点を養う。【デジタル技術利用 該当番号：①、③】					

授業計画	
第1回	イントロダクション：知的障害を取り巻く環境
第2回	知的障害の診断基準と分類
第3回	知的障害の原因と周産期の問題
第4回	乳幼児期にみられる知的発達の問題
第5回	知的障害児の特徴①：言語・コミュニケーション
第6回	知的障害児の特徴②：注意と記憶
第7回	知的障害児の特徴③：学習
第8回	就園・就学支援
第9回	進路選択
第10回	就労支援と結婚・子育て
第11回	家族支援
第12回	自己受容と諸問題
第13回	知的障害児者が抱える課題：グループ発表①
第14回	知的障害児者への支援：グループ発表②
第15回	講義のまとめと最終テスト

事前学修	2時間	授業で取り組む内容について、テキストの該当ページを読んでおくこと。また、知的障害に関連するニュースや新聞記事に目を通して置くこと。
事後学修	2時間	授業で配布する資料を、授業をふり返りながら読み、要点をまとめておくこと。
フィードバックの方法	①振り返りシート、レポートは、必要に応じてコメントをして返却。質問事項に関しては講義で解説を加える。 ②グループ発表後に、コメントや補足説明を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

上記以外の試験・平常点評価	100%	①振り返りシート(30%)、②グループ発表(20%) ③最終テスト：基礎知識(20%)/支援に関する論述 (30%)
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
知的障害児の心理・生理・病理[第2版]: エビデンスに基づく特別支援教育のために	勝二 博亮 編著	北大路書房	4762832391	ISBN-13：978-4762832390
参考資料				